# 第Ⅳ章 主な品目別の課題と振興方策

# 1 果 樹

## 1－1 露地びわ

### 現状・課題

露地びわは、長崎市が全国トップの栽培面積と生産量を誇る果実でありますが、近年特に平成18年の台風、平成24年と平成28年の寒害ほか夏秋期の日照不足・収穫期の長雨と度重なる気象災害にあっています。気象災害の都度、生産量が激減していますが、生産者と関係機関の尽力で復興してきています。しかしながら、急傾斜地に階段状に展開する果樹園の土地条件や有害鳥獣被害、農業者の高齢化、放任園の増加など様々な問題を抱えています。

なお、農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数は、平成27年は577経営体で、10年前と比較すると76%となっています。また、生産量は、近年の平年（平成22年）540ｔで、平成の最高年（平成11年）と比較すると５分の１程度に落ち込んでいます。

このような状況を克服するため、生産者・ＪＡ・長崎市・長崎県が一丸となり、日本一のびわ産地の継続と発展をめざし、災害に強いびわ産地にむけた取組みや長崎びわ「なつたより」の生産拡大・計画的安定生産の確立・ブランド化に取り組んでいます。

### 振興方策

1　「なつたより」の生産振興（計画的な植栽・独自ブランド化による有利販売・共同選果等）
2　災害に強い産地にむけた体質強化（簡易ハウス導入・果樹共済加入・低樹高化）
3　園地・農道・園内道の整備
4　新たな生産基盤整備の推進
5　作業受委託組織の設立等労力支援の確立
6　園地台帳整備による生産量素欲と販売戦略の確立
7　補完作物導入による経営体質の強化

## 1－2 ハウスびわ

### 現状・課題

ハウスびわは、生産農家の高齢化や施設の老朽化・ハウス資材の高騰等により、農業者や生産量は減少傾向にありますが、農地条件が良好な地域においては、施設の長寿命化対策や面積拡大及び定年帰農者等の就農があり、栽培面積が維持されています。

一方、販売面では、燃料価格の問題や暖房機の老朽化等から、加温不足による出荷時期の遅れが生じ、早生系露地びわとの競合等が懸念されています。

### 振興方策

1　補助事業を活用した施設整備による栽培面積の維持・拡大
2　計画的安定生産の確立
3　ハウスの長期利用化・遊休ハウスの流動化
4　単収及び秀品率の向上
5　有利販売の確立

## 1－3　みかん・中晩柑

### 現状・課題

みかんは、近隣に大きな産地があります。近年の気象条件により、果実品質・単収が不安定で販売価格が低迷しており、ＪＡ統一ブランド「長崎の夢」・「味ロマン」の合格率向上にむけた栽培技術向上が課題であり、高品質果実の安定生産が必要です。

また、不知火など中晩柑への改植が進んでいます。

### 振興方策

1　優良品種への品種構成の転換・優良園地の確保

2　マルチ被覆面積の拡大等、ブランド園地登録への積極的な取組み・高品質生産

3　品種系統によるリレー販売の確立

4　柑橘類品種構成の見直しによる労力分散

## 1－4　もも・なし・ぶどう

### 現状・課題

もも・なし・ぶどうは、生産量は多くありませんが、地域の特産となっており、施設栽培も行われています。びわや柑橘類と時期が異なることから、労力分散が可能な品目となっています。しかしながら、いずれも生産量や品質向上が課題となっています。

### 振興方策

1　もも

●適正栽培管理の徹底による単収・品質の向上

●ブランド商材の生産拡大

2　なし

●栽培管理技術の統一と向上

●共同販売体制の確立および販路の開拓

3　ぶどう

●優良品種の導入

●栽培管理技術の統一と向上

## 1－5　ザボン・ゆうこう

### 現状・課題

歴史性や物語性のあるザボンやゆうこうは、市内外からの知名度が高まっていますが、栽培面積や生産量が少ないため、消費拡大や加工品の開発にむけた取組みを推進し、生産地域の活性化を図っています。

### 振興方策

●栽培管理技術の統一と向上による品質の向上

●加工品開発の推進と認知度の向上

# 2 野 菜

## 2-1 いちご

### 現状・課題

いちごは、長崎市南部地区・東部地区・琴海地区で生産され、新規就農者や若い農業者が多い品目であり、長崎市の主要農産物の一つです。現在、優良多収量品種「ゆめのか」に転換されており、単収向上につながっています。

また、農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数は、平成 27 年は 87 経営体で、10 年前と比較すると 58%となっています。

なお、生産販売における課題としては、品種の転換期による安定生産技術の確立、単収の格差、生産の省力化、労力不足の解消及び出荷調整作業の効率化などがあげられます。

### 振興方策

1　安定生産技術の確立・単収の格差是正（低所得農業者サポート）
2　年内出荷比率の向上・大玉果生産の確立
3　ハウスの長期利用化・遊休ハウスの流動化
4　電照や自動化ハウス設備導入による省力化安定生産の確立
5　出荷調整作業の労力軽減・ＪＡパッケージセンター構想の進捗
6　出荷市場集約等による安定販売

## 2-2 アスパラガス

### 現状・課題

アスパラガスは、単価・収益性とも比較的安定している品目であり、琴海地区を中心に、新規就農者も多い品目です。しがしながら、夏場の高温期の作業と品質低下、単収の個人格差、株の老齢化による収量低下などが課題となっています。

なお、琴海地区では、ホワイトアスパラガスも生産されています。

### 振興方策

1　老齢株の更新・株の若返りによる安定生産
2　夏場の下温対策による品質向上と作業性向上
3　ハウスの長期利用化・遊休ハウスの流動化

## 2-3 ミニトマト

### 現状・課題

ミニトマトは琴海地区を中心に生産され、収益性の高い品目といえますが、生産コスト等の上昇により経営の伸び悩みが生じています。

また、施設・設備への投資が必要であることや、労働時間が長いことから、個々の規模拡大が進んでいない状況にあります。

### 振 興 方 策

1　生産コスト削減による所得の向上
2　耐病性品旬の導入による安定生産
3　ハウス設備導入による省力化・高品質化

## 2-4　野菜類（ばれいしょ・しょうが・新規野菜・伝統野菜等）

### 現 状 ・ 課 題

野菜類では、「ばれいしょ」「ほうれんそう」「しょうが」「ねぎ」「すいか」「とまと」「伝統野菜」など小規模で豊富な種類の野菜類が生産されています。

また、都市近郊型農業として生産されていますが核となる品目に乏しいうえ、組織だった生産出荷も少ない、個々の生産者が中央卸売市場や直売所などへ出荷しています。

今後、異なる作物の月別リレー栽培の導入、新規作物（ブロッコリー等）の作付け、物語性のある伝統野菜の活用向上による農業経営の安定が課題となっています。

### 振 興 方 策

1　核となる品目の選定・試作及び作付の推進
2　定年帰農者や直売所出荷型農業者などを対象とした生産の推進
3　加工・業務用むけ露地野菜の推進
4　簡易ハウス導入による高品質生産の確立

# 3 花き

## 3－1 菊

### 現状・課題

菊は、周年栽培を基本としていることから、台風などの気象災害対策として高規格ハウスが導入されています、長崎市の土地条件から圃場分散型や他市への出作等の栽培形態となっています。

農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数（花き類）は、平成 27 年は 206 経営体で、10 年前と比較すると 70%となっています。

花きの農業者は比較的若い世代が多く、施設の省力化・自動化、省力化品種への転換等をおこなっていますが、なお労働時間の多さや労力不足が生産性の低下の一因となっています。

近年、輸入花きの増加や需要低迷により、花きの消費拡大にむけたニーズの喚起も課題となっています。

### 振興方策

1　施設の省力化・自動化、品種の転換及び雇用労力確保による高品質生産
2　適正管理の徹底による病害虫防除と需要期安定出荷
3　生産コストの低減
4　物日・祭事等の花定着・公共等消費・祭事直販など新需要の創出
5　統一ブランドの確立や市場等連携による単価安定・スマート農業の確立

## 3－2 草花（トルコギキョウ・きんぎょそう・水仙・ユリ等）・花木

### 現状・課題

草花類は、新規就農者が多い作物となっており、三和地区や琴海地区において、施設面積の拡大・ハウス設備の充実が実施されています。比較的小規模の年齢層が若い産地であることから、今後なお一層、品質と所得の向上にむけた取組みにより、産地の発展が期待されています。

野母崎地区を中心として日本水仙が特産となっており、有利販売にむけた促成栽培に取り組んでいます。農業者の高齢化による生産量の維持が課題となっています。

また、長崎市古賀地区では、「花木」が生産され、その歴史は古く、庭園木や観賞用として高い評価を得ています。

### 振興方策

1　草花施設の省力化・自動化及び雇用労力確保による高品質生産
2　消費者ニーズの把握による作付作物・有望作物（ユーカリ・花木・ほおづき）の選定
3　新規生産者の掘り起こし等による水仙産地の維持
4　物日・祭事等の花定着、公共等消費及び祭事直販など新需要の創出

## 4 畜 産

### 現状・課題

畜産は、肉用牛（肥育・繁殖）、乳用牛、養豚、養鶏及び酪農に大別されます。平成 24 年全国和牛能力共進会において、「長崎和牛・出島ばらいろ」の農業者が含まれる長崎県チームが最高位にあたる賞を受賞し、長崎びわ「なつたより」と併せ、生産者と関係機関が一体となってブランド化に努めています。

長崎県家畜・家きん飼養頭羽数等によると、肉用牛の飼養戸数は平成 27 年度で 21 戸となっています。

肉用牛の肥育農業者においては、近年の素牛価格の高騰等により、生産コストが増大しており、ＪＡによる繁殖牛センターの設立が期待されています。

また、糞尿処理堆肥が余剰状態となっており、野菜や果樹生産などの耕種部門と畜産部門との連携が必要となっています。

なお、畜産経営においては、家畜伝染病の予防強化と危機管理体制の充実が図られています。

### 振 興 方 策

1　低コスト生産による経営の安定
2　耕畜連携の推進
3　家畜疾病防疫体制の強化

## 5 農産物直売所

### 現状・課題

直売所の増加やスーパーのインショップの展開等によって、直売所が飽和状態にあるといえ、長崎市内の農水産物直売所の全体売上げは微増傾向にありますが、直売所の半数で売上げが下降しています。また、開店時間が早い時間帯であることが多く、夕方には品切れ状態となったりと、消費者の多様なニーズに十分に対応できていない状況が生じています。

近年、定年帰農者などの増加傾向にあることから、直売所への農産物供給者が増加することが見込まれます。

### 振 興 方 策

1　農産物品揃えの拡充・店舗間産地間交流の促進
2　直売所運営を通じた、地産地消の推進と地元農産物の消費拡大
3　周年生産の推進・顧客ニーズに応じた生産体制の確立
4　ポジティブリスト制度対応とＧＡＰ（農業生産工程管理）の取組み
5　加工品の開発・６次産業化にむけた取組み
6　生産者が安心して出荷できる体制づくり